

外国語教育メディア学会 (LET)
関西支部

2024年度 秋季研究大会

基調講演 (ハイブリッド形式・オンライン参加可)

「AI時代の良い書き手の育て方：教師が目を向けるべきこととは」
保田 幸子 (神戸大学)

シンポジウム (ハイブリッド形式・オンライン参加可)

「AI時代のライティング活動：教師と学習者の立場から考える」
【シンポジスト】

金丸 敏幸 (京都大学)

植木 美千子 (関西大学)

南部 久貴 (滋賀県立伊吹高等学校)

日時 2024年10月26日 (土) 10:00~17:00

場所 大阪教育大学 天王寺キャンパス 西館

参加費 LET会員：無料, 非会員：2,000円, 大学院生：1,000円, 学部生：無料

外国語教育メディア学会 (LET)
関西支部

kansaillet@gmail.com

参加申し込み
詳細はこちら→



<https://let-kansai-2024-fall.peatix.com/>

AIの自動添削の性能が劇的に向上する中、英語ライティング指導においてAIツールを活用する事例の報告も増えつつある。しかし、「自動添削」という言葉からイメージできるように、AIを活用した英語ライティング指導についての議論では、常に視点が「文章」や「作品」そのものに置かれ、「この文章はどこがおかしいか」「どこを直すべきか」が主な関心となっている。一方で、そのような視点で文章と向き合っていると、大事なことを見失ってしまうのではないだろうか。それは、文章や作品の向こうには「書き手」がいるということであり、教師（読み手）が本当に相手にすべきなのは、その書き手だということである。AIの自動添削機能に注目が集まる昨今、改めてそもそも私たちは「何のために書くのか」を考えることが重要ではないかと考えた。本講演では、AI時代のライティング指導で教師が目をつけるべき5つのポイントについて参加者の皆さんと議論したい。

基調講演

保田 幸子氏



神戸大学大学院国際文化学研究所
国際コミュニケーションセンター教授
専門は、第二言語ライティング、
アカデミックライティング、ジャンル分析

「AI時代の良い書き手の育て方： 教師が目をつけるべきこととは」

シンポジウム

「AI時代のライティング活動： 教師と学習者の立場から考える」



金丸 敏幸氏

京都大学国際高等教育院准教授。博士（人間・環境学）。外国語教育・理論言語学・自然言語処理の知見を活用し、カリキュラム、教材、指導法の開発や教育評価の研究に携わる。AI時代における外国語教育のあり方について、論考、講演を多数行っている。近著には『英語教材の最前線（第4章執筆）』がある。

関西大学外国語学部准教授、博士
（外国語教育学）。

海外留学や外国語学習における動機づけや不安など学習者情意を研究している。また動機づけを高める授業実践にも関心が強く、近年は英語ライティングクラスを担当し、AI技術を活用して学習者のエンゲージメントを高める方法について実践的な授業を行っている。主著には『L2 Selves and Motivation in Asian Contexts（第5章担当）』がある。



植木 美千子氏

滋賀県立伊吹高等学校教諭。修士（教育学）。ICTを活用した教育に関心があり、2022年度には、滋賀県のICTコアティーチャーを務めた。著書に『ChatGPT×教師の仕事』、『英語教師のためのChatGPT活用ガイド』（ともに明治図書）がある。



南部 久貴氏

近年、英語教育におけるAI活用が盛んに議論されている。特にライティングは、機械翻訳や自動添削の精度の向上により、影響が顕著である。本シンポジウムでは、はじめに、生成AIの登場がライティング指導に与えた影響について概観する。次に、高校・大学という異なる校種のライティング指導における生成AIの活用例を紹介する。これらを通して、教師と学習者双方にとってのAI活用の利点と限界点、そして今後の可能性について議論する。